

<目的>

地域医療構想調整会議にて、各医療機関が策定した「公的医療機関等2025プラン」「新公立病院改革プラン」の内容を説明し、その内容を共有するとともに、各構想区域における課題の解決等に向けた議論に役立てる。

<説明方法>

事前提出資料にそって1病院当たり3分で説明をお願いします。

(事前提出資料の内容)

- 構想区域別キーワードを踏まえた自院の方向性や取組等について
- 「地域」の考え方と連携
- 地域包括ケア病棟の役割
- 他の医療機関に求めること
- 近隣と遠方の関係機関連携
- 病床機能の分類方法

なお、プラン説明資料で使用する「キーワード」は以下のとおりです。

構想区域	キーワード
区中央部	○ 多くの流入患者 ○ 情報共有 ○ かかりつけ医との連携
区南部	○ 後方支援体制 ○ 顔の見える関係づくり
区西南部	○ 病院・かかりつけ医の情報 ○ 広域的な情報共有 ○ かかりつけ医との連携
区西部	○ ICT・ネットワーク化 ○ 顔の見える関係・連携
区西北部	○ ICT・ネットワーク化 ○ 顔の見える関係・連携
区東北部	○ 顔の見える関係 ○ 情報共有にあたってのルール作り ○ 住民理解
区東部	○ MSWの役割 ○ 人材育成・確保 ○ 在宅医との連携
西多摩	○ 役割分担 ○ 情報共有 ○ 連携の円滑化
南多摩	○ 入院時連携 ○ 情報共有 ○ 地域のネットワーク
北多摩西部	○ 後方支援 ○ ICT・ネットワーク化
北多摩南部	○ 役割分担 ○ 情報共有・ICT ○ 人材育成・確保
北多摩北部	○ 役割分担 ○ ツールの共通化・ICT ○ 顔の見える関係づくり

※ 別紙「これまでの議論の到達点（構想区域別）もあわせて御確認ください。

区中央部

地域の特徴

- 地域包括ケア病床が増えているものの他病院等からの転院割合は低い
- 急性期機能以降、退院調整部門を持つ病院が減る
- 他の構想区域で、区中央部に流入した患者の退院連携を求める声

課題

- 地域包括ケアを支える病床を効率的かつ効果的に活用するための方策
- 入院患者を地域のかかりつけ医に円滑に戻すための取組が必要
- 圏域内の医療機関の医療機能を把握するなど連携を強化する取組が必要

解決に向けたキーワード

- 多くの流入患者
- 情報共有
- かかりつけ医との連携

区南部

地域の特徴

- 退院調整部門を置いている割合が低い
- 慢性期機能の病床稼働率が低い
- 在宅医との連携に課題を感じる病院の声

課題

- 急変時の受入れなど病院と在宅医との連携強化の取組が必要
- 顔の見える関係を構築し、圏域内の医療機関の情報共有を進める取組が必要

解決に向けたキーワード

- 後方支援体制
- 顔の見える関係づくり

区西南部

地域の特徴

- 急変時の受入を望む地域の診療所の声
- 退院支援の充実を求める声
- 慢性期病院からもう少し早く在宅に戻してほしいとの声
- レスパイト受入機関が不足しているとの声

課題

- 地域の中で医療機関等の情報を共有するための取組が必要

解決に向けたキーワード

- 病院・かかりつけ医の情報
- 広域的な情報共有
- かかりつけ医との連携

区西部

地域の特徴

- 急性期機能、回復期機能において退院調整部門を置いている割合が高い
- 退院調整を求める地域の診療所の声
- 在宅に帰すための機能が不足しているとの声

課題

- 在宅移行をする際の情報共有・連携の取組を強化することが必要
- 高度急性期・急性期と回復期・慢性期における病院間の入退院調整の取組を充実させることが必要

解決に向けたキーワード

- ICT・ネットワーク化
- 顔の見える関係・連携

区西北部

地域の特徴

- 高度急性期から慢性期機能まで全ての機能で流出
- 中小病院の割合が高い
- 回復期機能において病床稼働率が低い
- 急変時やレスパイトの受入れを求める声

課題

- 限りある圏域内の医療資源を有効に活用していくため、圏域内の連携を強化する取組が必要

解決に向けたキーワード

- ICT・ネットワーク化
- 顔の見える関係・連携

区東北部

地域の特徴

- 中小病院割合が高い
- 退院調整部門を置いている割合が低い
- 退院後に在宅医療を必要とする患者の割合が高い
- 丁寧な退院調整を求める地域の診療所の声

課題

- 医療機関と介護施設間の退院調整に向けた連携を強化する取組が必要
- 中小病院間の顔の見える関係を構築し、情報共有・連携を強化する取組が必要

解決に向けたキーワード

- 顔の見える関係
- 情報共有にあたってのルール作り
- 住民理解

区東部

地域の特徴

- 中小病院割合が高い
- 全機能において退院調整部門を置いている病院の割合が低い
- 全機能において流出超過
- 丁寧な退院調整を求める地域の診療所の声

課題

- 退院調整部門を置いていない医療機関も含め、退院調整を充実・強化させるための取組が必要
- 高度急性期から回復期まで各機能間の連携を強化するための取組が必要

解決に向けたキーワード

- MSWの役割
- 人材育成・確保
- 在宅医との連携

西多摩

地域の特徴

- 急性期機能・回復期機能において、病床稼働率が低い
- 急変時対応を求める地域の声
- 退院調整部門を持つ医療機関の割合が低い

課題

- 限りある医療資源を効率的・効果的に活用するため、公立病院と民間病院との連携、役割のあり方

解決に向けたキーワード

- 役割分担
- 情報共有
- 連携の円滑化

南多摩

地域の特徴

- 慢性期機能において、退院調整部門を持つ割合が低い
- 早期の在宅移行を求める地域の診療所の声
- 急変時の受入れを積極的に行ってほしいとの声

課題

- 医療機関、介護施設、在宅医との顔の見える関係を構築し、入退院調整を充実・強化する取組が必要

解決に向けたキーワード

- 入院時連携 ○ 情報共有 ○ 地域のネットワーク

北多摩西部

地域の特徴

- 急性期機能及び回復期機能の病床稼働率が低い
- 退院後に在宅医療を必要とする患者の割合が高い
- 急変時対応を求める地域の診療所の声

課題

- 地域内での連携を深め、入院・退院調整を円滑に進めていくための取組が必要
- 地域の中で在宅患者を支えるため、病院・診療所間の連携・支援の取組が必要

解決に向けたキーワード

- 後方支援 ○ ICT・ネットワーク化

北多摩南部

地域の特徴

- 急性期機能、慢性期機能の病床稼働率が低い
- 退院後に在宅医療を必要とする患者割合が高い
- 回復期・慢性期機能において退院調整部門を置く病院の割合が低い

課題

- 地域の中で患者を受け止められるよう、入退院調整の取組を充実・強化することが必要
- 患者の状態、医療機関の対応可能な機能など、様々な情報を地域の中で共有することが必要

解決に向けたキーワード

- 役割分担 ○ 情報共有・ICT ○ 人材育成・確保

北多摩北部

地域の特徴

- 高度急性期機能・急性期機能の病床稼働率が低い
- 急性期機能が不足しているとの声
- 地域包括ケア病床が少ない

課題

- 医療連携を進める上で、各医療機関が担う機能についての情報共有を進めることが必要

解決に向けたキーワード

- 役割分担 ○ ツールの共通化・ICT
- 顔の見える関係づくり